

第160回運輸政策コロキウム ～ワシントン・レポートXX～ アメリカ航空産業の現状と今後の展望／米国空港における民間参画の取組と今後の展望

○日 時：2024年8月20日（火）10:00～12:00

○会 場：オンライン配信（Zoomウェビナー）



○プログラム

【開会挨拶】

10:00～ 奥田 哲也 一般財団法人運輸総合研究所 専務理事
ワシントン国際問題研究所長・アセアン・インド地域事務所長

【発表およびコメント（第1部）】 アメリカ航空産業の現状と今後の展望

10:05～
発表者 福原 和弥 ワシントン国際問題研究所 次長/主任研究員
コメンテーター 屋井 鉄雄 一般財団法人運輸総合研究所 所長

【発表およびコメント（第2部）】 米国空港における民間参画の取組と今後の展望

10:45～
発表者 萩原 徹大 ワシントン国際問題研究所 研究員
コメンテーター 花岡 伸也 東京工業大学環境・社会理工学院融合理工学系 教授
コーディネーター 屋井 鉄雄 一般財団法人運輸総合研究所 所長

登壇者のご紹介



発表者

福原 和弥 ワシントン国際問題研究所 次長/主任研究員

<略歴>

慶應義塾大学商学部卒業後、国土交通省に入省し、その後、航空、建築基準、高速道路、観光、海上保安等に関する制度・政策の企画立案に従事。同省において政策部門や国際部門にも所属し、政府全体の政策立案や経済安全保障法案への対応、インフラ海外展開等にも従事。2015年、シカゴ大学ハリススクール公共政策大学院において公共政策学修士号を取得。



発表者

萩原 徹大 ワシントン国際問題研究所 研究員

<略歴>

2008年4月、成田国際空港株式会社入社。事務系総合職として、会社の組織・情報管理、空港内の広告管理、空港会社直営施設の運営、旅客ターミナルビルの運営、施設使用料等の料金策定及び徴収管理、ビジネスジェットターミナルの運営、海外空港の運営事業等に従事。2012年から2014年まで、全日本空輸株式会社に出向し、旅客業務や危機管理業務等も経験。2021年10月より運輸総合研究所に出向し、同月よりワシントン国際問題研究所に赴任。北米を中心とした欧米の航空分野及び観光分野における政策や最新動向について調査・研究を実施。2008年早稲田大学法学部卒。



コメンテーター

花岡 伸也 東京工業大学環境・社会理工学院融合理工学系 教授

<略歴>

1994年東北大学工学部土木工学科卒業。1999年東北大学大学院情報科学研究科博士課程修了、博士(情報科学)授与。同年財団法人運輸政策研究機構運輸政策研究所研究員、2003年タイ王国アジア工科大学院工学技術研究科助教授、2007年東京工業大学大学院理工学研究科准教授を経て、2018年より現職。専門は航空政策・空港計画、交通開発学、国際物流・ロジスティクス。神戸大学海事科学研究科附属国際海事研究センター客員教授、英国リーズ大学交通研究所客員教授、Air Transport Research Society (ATRS)の Networking Committee、Journal of Air Transport Managementの International Editorial Board、国土交通省航空局の多数の委員会委員等を歴任。国際・国内学術誌に130本以上の論文を出版。土木学会土木計画学研究委員会優秀論文賞(2021年)、Emerald Literati Outstanding Paper Awards(2021年)を受賞。近著に、Low-cost carriers in the Japanese aviation market(単著)(Airline Economics in Asia, Emerald Publishing, 2018年)、Japanese aviation market performance during the COVID-19 Pandemic - Analyzing airline yield and competition in the domestic market(共著)(Transport Policy, Vol.116, 2022年)等がある。